

会 報

2021年4月号

東京アルコウ会



榛名湖より榛名富士を望む

◆ 4月集会、委員会

期日：4月25日（日）Zoom会議に変更
委員会：13:00～14:30、集会：15:00～16:30

◆ 4月の総会 中止

承認事項については5月号会報に掲載

◆ 5月集会、委員会 於：赤城生涯学習館

期日：5月30日（日）予定
委員会・集会：13:00～14:00、
講習会：14:00～17:00

<山行計画> *今後の感染状況により個別判断

5月2日（日）青梅の霞丘陵ハイキング L岡本

東青梅駅前、9時集合 コースタイム：3時間ほど
山裾の沿道を歩いて里山風景を楽しむ、霞丘陵
（最高峰230m）自然公園のツツジの名所を訪ねる。

（5月9日（日）100周年記念山行 御前山 延期）

5月9日（日）御岳溪谷ハイキング L久住

青梅線「軍畑」駅前10時集合 歩行タイム約3時間
軍畑駅前→御岳溪谷遊歩道入口→楓橋→寒山寺→
玉堂美術館鑑賞→御岳橋→（遊歩道）→沢井駅

5月15日（土）筑波山 L吉田

集合場所・時間集合：

つくばエクスプレス つくば駅改札口 8時15分

コース：つくばエクスプレス秋葉原発7:30⇒つくば
駅着8:15 駅前よりシャトルバス8:30発⇒筑波山神
社前バス停下車9:06(標高210m)―御幸ヶ原→男体山
(標高871m) (ケーブル) ⇒筑波神社前⇒つくば駅

5月22日（土）湯河原・幕山 L久住

集合場所・時間：湯河原駅前バス停No3、8時55分

東京駅発7:01(熱海行き) ⇒品川7:19⇒湯河原着8:52
コース：湯河原駅9:00発⇒幕山公園入口→幕岩→東
屋→幕山山頂→大石ヶ平・南郷山分岐→大石ヶ平
→一ノ瀬→幕山公園入口⇒湯河原駅
コースタイム：2時間25分+α

5月23日（日）南高尾山稜 L岡本

集合場所と時間=京王線高尾山口駅前 8時半

コース・タイム= 高尾山口駅―(甲州街道歩き)―
梅ノ木平バス停―西山峠―中沢山―金比羅山―大
洞山―大垂水峠―高尾山―高尾山口駅
歩行タイム：4時間又は4時間半+α

山行報告 山行回数 No.5720

○ 2021.4.3（土）晴れ

「トトロの森」散策 =係 久住=

参加者：久住(L)、宍戸、松井、田村(め)、武田、
吉田、小國、室澤

※8名の参加でしたので、ハイキング再開の留意事項を守って4人ずつの組に分かれて行動しました。

素敵な「足ならし」～トトロの森～

ハイキング再開の第1回目に、いの一歩に手を挙げて当日を楽しみにしていました。トトロと言えば、子育て奮闘時代にそのアニメを、何度子どもたちと観たか数え切れないくらいでしたので、あれこ

れ妄想しつつハイキングを楽しみました。

さて、集合時間が10:50とゆっくりで春爛漫の中、小手指駅前からバス乗車、大日堂停留所を後にして、まず初めの「クロスケの家」を目指します。

が、ほんの短い200m余りの道すがら、お茶の木畑、茶の実殻やハナニラなどに気を惹かれました。

そして「クロスケの家」は新型コロナウイルス感染対応として木戸が閉じられていました。残念。外から蔵の「クロスケの(紋)」を眺め、後日再訪することになりました。



この後は、トトロのお散歩ルートを進んで昼食場所の狭山湖畔のあずまやを目指しました。

先ほどバスを降車した大日堂停留所に戻って、その先を進みました。里山は農地にある桃やヤマボウシ、ミツバツツジ、桜など白や朱色、ピンク、紫などの花盛り、タラの芽の林、などで、歩みが止まり気味でした。

参加者の集合写真を撮影した三ヶ島八幡神社でひと休み、枝垂れ桜などの桜の花びらが程よい風に揺れて素晴らしい桜吹雪を浴びました。また地域の方が作られている芝桜の花園を見学させていただき、牡丹の花やチューリップの変種も見ること



とことができました。

そしてトトロの森29号地の脇を通り、狭山湖畔のあずまやに到着、昼食タイムです。

ゆっくりハイキングでしたので、飛沫防止を意識しつつこれからの山行計画を話したりしながらの昼食でした。あずまやからは、狭山湖畔の新緑がずーっと見渡せて、こちらも桜吹雪が時折起りなんと良い雰囲気でした。

さて、後半です。狭山湖堰堤を少し歩いてから、樹木を剪定して見立ててある「トトロの木」の脇を通り過ぎ、点在しているトトロの森28・1号地などをたどりました。



清照寺脇を通って28号地、堀口天満神社を通り過ぎてトトロの散策ルートを進りましたが、「号地」の表記が不明で1号地に着くまでのんびりと緑の中を歩きました。

今回のお散歩はここで終わりです。最後の西武球場駅まで残り少しでした。

11月の山行自粛からの再開で、少しずつ「山」に出かけるための足ならしとしてとても良いハイキングでした。

コロナ禍の中、人との交流が減り、口数少なく、自分との会話が多い毎日ですが、自然に囲まれて皆さんとお話しできた事が何よりでした。ありがとうございました。

(記 宍戸)

<コースタイム> 小手指駅前10:57発バス⇒大日堂バス停11:20→「クロスケの家」11:30~11:40→狭山湖畔東屋13:00 昼食~13:45→「トトロの木」14:10→堀口天満神社14:20~14:35→トトロの森1号地14:50→西武球場駅15:20

* <久住 補足>

狭山丘陵は宮崎峻による原作・監督の「となりのトトロ」の舞台のモデルの一つになった場所です。

公益財団法人「トトロのふるさと基金」はナショナル・トラスト（市民や企業からの寄付）によりこの地区の土地を取得し、自然及び歴史手建造物の保護を進めています。

山行報告 山行回数No.5721

○ 2021.4.11（日）晴れ、時々曇り

100周年記念山行 事前ルート調査

奥多摩 御前山 =係 窪田=

参加者：窪田、吉田、久住（3名）

朝は快晴、少し肌寒い気温でしたがハイキングには最適な条件でした。

奥多摩湖駅前からバス10分程で境橋バス停に到着。そこで簡単な準備運動を行いました。

橋のたもとの林道を辿って栃寄沢入口に到達。その手前の登山道は閉鎖されており止む無く大きく蛇行する林道を登っていくと、「栃寄り森の家」（宿泊可能）です。辺りは山桜、桃、レンゲツツジが満開、素晴らしい里山風景に出会えました。

更に林道を進むと、「トチノキ広場」に到着。そこには「体験の森」と刻まれた大石があり、立派な木組みの東屋がありました。清潔なトイレも整備されていることを確認しました。

そこから、林道を選ばず細いアップダウンの続く登山道を歩きましたが、林道と略平行な道の為、体力がない方には林道がお勧めです！その先は登山道が幾つにも分かれていて選択肢は色々ありました。

「活動の広場」、「カラマツの広場」を通過すると愈々御前山少し手前の「避難小屋」に到着、そこで昼食タイムとしました。12:30頃にも係わらず雲が少し出て日を遮ったためか標高1400m近いその場所では気温は2℃ほどに下がっており重ね着をして寒さを防ぎました。

「避難小屋」からの登山途中、運良く7~8年掛けて花開くカタクリの群生を見ることが出来ました。中々遭遇出来ない希少なカタクリの花に何度か足を止めました。都岳連がこのカタクリを保護しています。その先が今回の目的地「御前山」です。標高1404mの頂上には大きな石の標識が設置されていました。御前山周辺は珊瑚礁や放散虫などの海の生物などが堆積した、石灰石や硬いチャートという岩、塩基性火山岩等が分布しているとのこと。



御前山を過ぎると奥多摩湖まで下り坂が続きました。途中、カタクリの花が散在する中を進むとブナ、ミズナラ、ホウ他の林が広がり、目薬の木なども見ることが出来ました。



サス沢山まで急な下り坂が続き進行が大幅に遅れました。サス山の展望台からは大パノラマの奥多摩湖が一望出来、それまでの疲れも束の間忘れることが出来ました。然しそれからが本格的な急下り坂で「滑落注意」の看板にも脅かされ益々慎重な下りとなりました。

浮石、砂利、木の根が多く、道幅も狭いので窪田さん、吉田さんには途中随分待つて頂きました。

奥多摩湖に下りる直前の登山道で猿の群団に遭遇しました。枯れ葉がザワザワと動く音がしたかと思うと1頭の猿が登山道を横切りその後黒い塊が追い掛けたので一瞬クマが猿を追っているのかと勘違いしました。黒い塊に見えたのは10頭ほどの子ザルの群れがボス猿について行ったのでした。様子を伺うと登山道から外れた少し見晴らしの良い場所でボス猿が見張る中で子猿達が餌を探して動き回っていました。問題は別の1頭の猿が登山道に留まって我々の通過を邪魔していました。我慢しているとその猿は反対側の傾斜地に移動したのでその隙に我々

はそーとその場所を通過、難なく通り過ぎせました。が、そのすぐ後に又猿群団に遭遇してしまいました。その群団はすぐに登山道を外れたので事無く済みました。

今回の山行では、地図に表記されていたコースタイムの1.5倍ほど掛かってしまいました。御前山までの登りコースはコースタイムより1時間遅れ程度でしたが、惣岳山からの下り、特にサス沢山からの急下り坂では慎重に下山したため大幅な遅れを来たし、総行程でコースタイム比2時間半ほどの遅れとなってしまいました。

長時間の急勾配の下りが続き疲れましたが、カタクリの花の群生にタイミング良く出会えたことと、又、猿群団に遭遇し記憶に残る山行が出来ました。

(記 久住)

<コースタイム>

奥多摩駅前8:30⇒境橋バス停8:50⇒栃寄沢入口9:16→
 栃寄森の家9:29⇒9:57→トチノキ広場10:31～10:42→
 活動の広場11:24→カラマツの広場12:08→避難小屋
 12:27昼食～13:00→御前山13:20～13:28→惣岳山
 13:45→(大ブナ尾根)→サス沢山15:17～15:20→小
 河内ダム16:50→奥多摩湖バス停17:00～17:14→
 奥多摩駅17:30

随想

山に親しみ山に想う (35)

—韓国・摩尼山紀行— (記 岡本)

我が国の創始を説く「古事記」(8世紀初編纂)に天孫ニギノミコト(瓊瓊杵命)が九州高千穂の峰に降臨したと記されている。朝鮮においても山上に始祖が降臨したという神話的伝説が「三国遺事」(13世紀末)にある。北朝鮮の白頭山(中朝国境、標高2744m)と妙香山(平安道、標高1909m)、韓国の摩尼山に降臨したという伝説である。摩尼山は首都ソウルの西方40km程にある江華島(仁川広域市江華郡)の低山である。

摩尼山にまつわる伝説は他愛のない筋である。五色の瑞雲と妙なる音と共に白髪白衣の老神(檀君)が摩尼山山頂に降り立ち、忽ちのうちに高さ17尺、周り15尺の祭壇を築いた。21の石段を登り壇上で拝跪して、三千里の美しい山河の民を栄えさせると100日間祈った。やがて天空より「其方の民をして白衣を纏わせ精を出せば、常しえに栄よう」との声が

下った。こうして始祖檀君は三千里の民草を統べ導くこととなった。

2003年6月1日(日)、摩尼山(マニサン)を山行した。20年程前の韓国世情の一端にも触れつつ山行の模様を報告する。7時前に漢江沿いのマンションを出て、地下鉄4号、1号、2号と乗り継ぎ新村駅で下車した。新村市外バスターミナルで江華島行き市外バスに乗るのだが、改札口付近にはバスターミナルの案内板がない。新村は近くに延世大学などがあって学生の溜まり場である。早速、女子大学生にバスターミナルは何处かと尋ねると、「江華島ね、ここをずーっと行かれると、いいです」と返ってきた。一応敬語を使っているが、現代若者臭がぶんぶんする語調である。市外バスターミナルと称しても、駐車場広場に古い切符自販機が1台あるだけで全く資本投下していない。トイレもなく、近くの公園まで足を伸ばし用を足した。

8時10分発の江華行き急行便に乗車(3900ウオン)、客は自分を含めて2人、金浦国際空港付近で9人が乗車してきた。金浦平野のこの辺りは、田植えが終わり、車窓には茫洋とした青田の広がり白鷺が添景をなしている。心が寛ぐ田園風景である。1時間程の乗車で江華バスターミナルに着いた。摩尼山方面へ乗り換えるのだが、ターミナルの時刻表は壁に貼られたワープロA4版の1枚のみである。時刻表からは、摩尼山登山口へはどのバスに乗り、どこで降りたらいいのか要領を得ない。地べたにしゃがんで時間待ちしているバス運転手に尋ねると、9時55分のバスに乗れという。何のアナウンスもなくそのバスは出発した。「江華摩尼」バス停で下車した際に1400ウオン払った。辺鄙な田舎のバスには切符は不要のようだ。10人程が降りた。近くの信号まで200m程下ると、大型駐車場と「摩尼山国民観光地」の入口がある。入園料(1500ウオン)を払って入ると(10:40)、意外にもマイカーで来ているハイカーが多いのに驚いた。田舎のローカルバスターミナルや路線便が十分に整備される前に韓国社会がマイカー時代に急速に突入しているのを実感した。

摩尼山国民観光地に入ると、さすが摩尼山頂上までの登山路案内板があった。登りは、塹星壇(チャムソンドン、祭壇)経由で摩尼山頂上までのルートである。塹星壇までは階段路と檀君路があるが、人気のある階段路を選択した。20分程で広場(トイレ、水場)に着く。ここより石段と小岩の山道が交互に続く道になる。少し傾斜がキツク厳しい。下方

に見える、紺青の絨毯のように凩いだ江華湾が美しい。1時間程で緩やかな尾根上の小ピークにある塹星壇に着く(11:55)。いつの時代に建立されたかは不明であるが、歴史的に高麗期1270年、李朝期1659年、1700年に補修が重ねられたという。壇は上下に方と円の形をしており3m程の高さである。開天節(10月3日の建国記念日)に檀君を追慕する行事が行われる。現実を目にした祭壇には、始祖伝説を知ってか知らずか若者らが踏み込んでおり、厳肅さは毫も感じられない。深田久弥は高千穂の峰に登り「私は天孫降臨の聖峰に一人立って……皇祖発祥のあとを憶って去るに忍びがたいものがあった」(日本百名山の霧島山)と述懐している。



数分で塹星壇を後にした。直ぐに山火事哨所とヘリポートが尾根上に出てくる。ヘリポートが象徴するように、ここから摩尼山頂上まで岩稜線の厳しいコースになる。岩稜のとば口には「墜落注意」「登山路危険区間1km」と書いた警告版が立っている。岩稜の両側は緑の低木帯と草叢に落ち込んでいる。岩稜の累々とした岩の白い筋は、始祖檀君が頂上と塹星壇の間を歩いた道筋のように見える。頂上直下は危険度が高いので左への迂回路を採った。12時55分、摩尼山頂上(標高469m)に着いた。三角点と経緯度の表示板があるだけで取り立てたものはないが、江華湾(干満差は8m)の眺望が印象的である。



下山は浄水寺に降った。頂上からの下りの稜線は

岩稜線から不思議にも普通の山道に変わった。50分程の下りで浄水寺(新羅639年創建、李朝1426年再建)の傍の登山口に着いた。寺には大雄殿、三聖閣、石の三重塔がある。これらは皆小ぶりであるが、雅趣を漂わせて好感がもてる。大雄殿では婦人6名が丁重に叩頭している。聞こえる読経はテープで流されている(徳裕山白蓮寺等々でも)。韓国の寺では熱心な信者の姿をどの寺でも見ることができた。それとは裏腹に寺側では手抜きテープの読経を流していることがある。これには言いようのない矛盾を感じてきたが、寺も信者もこれを受け入れている。これこそ、韓国文化と韓国型宗教の本質のようなものが潜んでいるのではないかとの思いが払拭できない。

浄水寺近くの「浄水寺入口」バス停から江華ターミナル行きのバスに乗った(14:30)。

(了)

コラム

ーコッヘルについてー (記 永澤)

食器用具です。最近、英語のクッカーと言う方が一般的かもしれません。



登山、ハイキング、キャンプ等のアウトドアでは、特に「軽量・丈夫・携帯性」を、考慮します。そのため、「アルミ」製の重ね合わせセット式が多いです。

「東京トップ」とか、「エバニュー」の汎用製品が多かった。当会の代表が持っていた「チタン製」には驚きました。アルミよりは重いですが、鉄製よりも軽く丈夫です。

ただ、価格、熱伝導の悪さ等、使い勝手に慣れる必要があります。最近、薄いステンレス製のものも出てきています。

今は、「新型コロナ禍」で山での炊事は出来ませんが、楽しいものです。